

Title	法学研究第九十七巻 (令和六年自一号至十二号) 総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学会
Publication year	2025
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.98, No.3 (2025. 3) ,p.107- 116
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20250328-0107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

頁	号
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8
9	9
10	10
11	11
12	12
13	13
14	14
15	15
16	16
17	17
18	18
19	19
20	20
21	21
22	22
23	23
24	24
25	25
26	26
27	27
28	28
29	29
30	30
31	31
32	32
33	33
34	34
35	35
36	36
37	37
38	38
39	39
40	40
41	41
42	42
43	43
44	44
45	45
46	46
47	47
48	48
49	49
50	50
51	51
52	52
53	53
54	54
55	55
56	56
57	57
58	58
59	59
60	60
61	61
62	62
63	63
64	64
65	65
66	66
67	67
68	68
69	69
70	70
71	71
72	72
73	73
74	74
75	75
76	76
77	77
78	78
79	79
80	80
81	81
82	82
83	83
84	84
85	85
86	86
87	87
88	88
89	89
90	90
91	91
92	92
93	93
94	94
95	95
96	96
97	97
98	98
99	99
100	100

投票選択肢としてのクライエントリズム		一	出岡直也
――経済投票の枠組との関連への含意を重視したレビュー――			
後藤新平と福沢諭吉		三	小川原正道
――伝染病研究所移転問題をめぐって――			
日本の反撃能力保有に至る政治過程に関する考察、一九九九―二〇二二年		一	咒宮岡勲
高度経済成長期の自民党政務調査会		七	奥健太郎
――社会部会とその周辺――			
参議院自民党の人事と首相権力		二二	松浦淳介

「日本初の女性議員三九名」はどこへ行ったのか ——大量当選、大量落選の構造分析——	一三	清水唯一朗
明治期日本の選挙運営 ——第一回衆議院議員選挙を例として——	一七	末木孝典
後藤新平と台湾総督府顧問制度	一九	王 麒 銘
「官吏公選」に関する一考察	二九	柏 原 宏 紀
尾崎行雄の尚武論	二五	加 地 直 紀
屯田兵の設置と開拓使	二九	門 松 秀 樹
一九一〇年代慶應・ハーバード大学間の教員招聘過程 ——R・J・レイを中心に——	三七	姜 兌 琬
「大久保政権」下の黒田清隆 ——明治六・七年の外交と内政——	三九	久保田 哲
大日本私立衛生会とその「支会」	三五	小 島 和 貴
征韓論争と台湾出兵 ——明治六年の政変から出兵の決定に至る経緯について——	三五	後 藤 新
華北分離工作期における日満華提携論の一考察 ——永井柳太郎を中心に——	四二	坂 本 健 蔵
ジャワにおける陸軍中野学校出身者の情報・工作活動とその影の局面 ——柳川宗成大尉の遺稿から——	四三	澤 田 次 郎
「排日移民法」をめぐる在郷軍人とアメリカニズム ——在郷軍人会の反応とグローバルな思想の交差がもたらした齟齬——	四三	玉 木 寛 輝

知的財産権の「開国」を巡る日本と欧米諸国	一五七	鶴岡聡史
— 日独通商航海条約から日本のパリ条約とベルヌ条約加盟まで —		
第一次世界大戦と「独探」	一五五	諸橋英一
— 『東京朝日新聞』による粗描 —		
インターネット上の政治的活動の意義についての民主党議員の認識	一五三	吉田龍太郎
憲法上の権利の制限と内容形成	二一	小山剛
— 夫婦同氏制を例に —		
優生と憲法	二三	大林啓吾
— その予備的考察としてのアメリカ判例および裁判例の分析 —		
現代中国における政治体制の強韌性	二五	磯部靖
— 文化大革命期の省指導部人事に関する分析を中心として —		
女性政治家の選出は民主主義に対する政治的態度に影響するか？	二八	築山宏樹
— 回帰不連続デザインに基づく実証的検討 —		
勤務時間制度の変化がもたらす中央省庁の働き方への影響	二〇九	小田勇樹
— 行政学的視座からの論点 —		
地方政治に関する住民意識の分析	二二九	谷口尚子
生活政治関係性感覚に関する研究	二二〇	井田正道
選挙区割りの変更と投票率	二一六	石上泰州
— 東京都区部を事例として —		
民主主義とガバナンスの関係性はどのように捉えられるのか	二一五	岩崎正洋

公職選挙法に対する有権者の理解	二二五	岡田陽介
— 政治家の寄附についての全国意識調査の分析 —		
棄権が政党間競争に及ぼす影響	二二九	三船毅
／国家 概念の再検討と／国家の歴史的展開	二二〇	富崎隆
— 国家性強度 (stateness / ウェーバー値) を用いた新解釈 —		
Immigrant Integration and Place Attachment among Brazilian Immigrants in Japan	二二〇	TAKENOSHITA Hiroko
社会保障制度の隠れた債務	二二四	麻生良文
電気通信サービス利用者・消費者保護の法制度	三一	青木淳一
— 電気通信事業法に基づく制度整備と課題 —		
非正規労働者と企業年金	三三	森戸英幸
家事と労働法	三六	両角道代
— 家事労働者の法的保護に関する一考察 —		
ライフイベントによる就労困難とキャリア配慮義務	三九	石崎由希子
ヤングケアラーへの支援と課題	三三	橋爪幸代
— 従来型福祉サービスの壁 —		
包括的支援体制下での支援の法的統制に関する覚書	三一	林健太郎
アイルランドの民間医療保険におけるリスク構造調整	三二〇	増田幸弘
— 沿革と概要 —		
代議制民主主義の機能の測定	四一	小林良彰
司法裁量と裁量統制 (二)	三七	大林啓吾
民事訴訟法学における危険なマジックワード	五一	三木浩一

司法裁量と裁量統制（二・完）	五	大林 啓 吾
趙欣伯の日本憲法調査と旧満洲国の憲法制定	六	吳 迪
Now There is No Government: <i>Rampok of 1942 in Indonesia</i>	六	YAMAMOTO Nobuto
元請会社の下請労働者に対する安全配慮義務（一）	七	平野 裕 之
元請会社の下請労働者に対する安全配慮義務（二）	八	平野 裕 之
"Liberal" Transformations in Southeast Asia	八	YAMAMOTO Nobuto
特集 ブラジル法における司法アクセスと社会的包摂（一）		
解 題	八	前田 美 千 代
消費者の権利の集団的救済	八	パウラ・サルク・ブラガ
手続法の I T 化	八	前田 美 千 代
— 人工知能（A I）、オンライン裁判所、O D R —	二六	アントニオ・カブラウ
民法改正と債権譲渡の「権利行使要件」	九	池 田 眞 朗
— 追悼・潮見佳男教授 —		
元請会社の下請労働者に対する安全配慮義務（三・完）	九	平野 裕 之
特集 ブラジル法における司法アクセスと社会的包摂（二・完）		
障害者・高齢者保護のための実体法と訴訟法	九	ポアンル・ゴザニョ
ブラジル民事訴訟法における家族の手続的規律	九	山口 詩 帆
	九	アレシアン・レオス・カサ
	九	マンヤド・ダニエル／訳

高齢者・障害者の個別的・集団的な裁判上・裁判外の保護における検察庁の役割	九
ブラジル民事訴訟における最新トピックス	九

山本 詩帆／訳
安永 祐司／訳
工藤 敏隆／監訳

身体的自由	十
-------	---

イギリス倒産法におけるプレパッケージ型会社管理・再論	十一
----------------------------	----

―会社倒産・ガバナンス法施行後の状況―	十一
---------------------	----

労働契約の準拠法	十二
----------	----

―東京地方裁判所令和五年三月二十七日判決（ケイ・エル・エム・ロイヤルダツチエア）	十二
--	----

ラインズ（雇止め）事件）をめぐって―	十二
--------------------	----

社会現象としての「存在論的不安」	十三
------------------	----

―ギデンズの社会学論と実存哲学・精神分析・政治理論―	十三
----------------------------	----

インフラ整備における国の役割の変化と政策転換	十三
------------------------	----

―ローカル鉄道と水道事業を事例として―	十三
---------------------	----

研究ノート

大宝律復元・新考	十四
----------	----

―量刑が養老律よりも唐律に等しい条項、及びその他の未復元条項―	十四
---------------------------------	----

上野 利三

資 料

日仏担保法セミナー・二〇二一年オルドナンスによる動産債権担保法改正の動向			
解題―二〇二二年日仏担保法セミナーの開催について―	七	一	片山直也 瀬戸口祐基 齋藤由起
有体動産・集合財産上の担保	七	五	ジャリジャク・アンイ 瀬戸口祐基／訳
債権や通貨を目的とする担保	七	二七	オーギュスタン・エネス 齋藤由起／訳

民事訴訟における民間の資金調達に関する比較法的考察	十	八七	ヴォルフガング・ハウ 芳賀雅顯／訳
ドイツ国際民事訴訟における訴訟能力	十二	二九	ヴォルフガング・ハウ 芳賀雅顯／訳
ドイツにおける家庭事件に関する裁判の執行	十二	五	フォルカー・リッツ 芳賀雅顯／訳
―国内および涉外事案について―			

判例研究

〔商法〕

六四五	国際航空旅客運送における受託手荷物の延着事例	四	二	菅原貴与志
六四六	複数の転倒事故の一連性と不慮の事故の急激性要件等	五	六	李 鳴
六四七	ソーシャルレンディング事業への関与者の責任	六	六	遠 藤 元 一
六四八	関西スーパーマーケット株式交換差止等仮処分命令申立事件	七	四	杉 田 貴 洋
六四九	権利能力なき社団の構成員による決議の効力	八	一	久保田安彦
六五〇	社員が二名の合同会社において、一名の社員の意思に基づき訴えをもって他の一名の社員の除名を認めた事例	九	三	池 島 真 策
六五一	株主総会の定足数に頭数要件を定めた定款の効力とその適用範囲	十	三	鈴木千佳子
六五二	日常事故賠償責任補償特約における「日常生活」に起因する事故の意義	十	四	肥 塚 肇 雄
六五三	合同会社の業務執行社員が他の業務執行社員に対する監視義務違反を理由に会社法五九七条に基づく責任を負うとされた事例	十	七	南 健 悟

〔最高裁判事例研究〕

四七五	令和五一（民集七七卷三号三八九頁）
-----	-------------------

五	五	小原将照
---	---	------

紹介と批評

エリック・カウフマン（臼井美子訳）

『WHITESHIP 白人がマイノリティになる日』

.....

五 一〇九 関根政美

特別記事

玉井清教授略歴・主要業績

一 五九

河野武司教授略歴・主要業績

二 二九

内藤恵教授略歴・主要業績

三 一六

林秀光君学位請求論文審査報告

四 二五

ペリチ・マルツェラ君学位請求論文審査報告

四 一四

大野悠介君学位請求論文審査報告

四 五一

粕谷真司君学位請求論文審査報告

四 一六

法学研究第九十六卷（自一号至十二号）総目次

四 一五

竹内悠君学位請求論文審査報告

十 一四

玉蟲由樹君学位請求論文審査報告

十 一五

坂入遼君学位請求論文審査報告

十 一六

安田淳君学位請求論文審査報告

十 一七

長島皓平君学位請求論文審査報告

十一 一六

方景暉君学位請求論文審査報告	士
河野航平君学位請求論文審査報告	士
陳凡龍君学位請求論文審査報告	士
板倉圭佑君学位請求論文審査報告	士
令和六年度慶應法学会シンポジウム「偽情報」	士

士	七
士	五
士	三
士	二
士	一